

のべか 市史だより

Vol. 1

2021.9.30

TAKE FREE



竹瀬の渡し舟(延岡市北川町) 昭和14(1939)年頃 個人蔵

新しい「延岡市史」の
編さんが始まりました！

二十一世紀に入り二十年が過ぎ、年号も平成から令和に移り三年目となりました。近年の情報化社会の進展は私たちの生活を大きく変えました。また、新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威をふるい、日本では「新しい生活様式」への移行が求められるようになるなど、私たちは大きな環境の変化の真っ只中にいます。後世、この時代はどのように評価されるのでしょうか。

歴史は日々集積であり、地域の歴史を振り返ってみると、現在の私たちの暮らしの基礎がそこにあり、今を生きる私たちの日々の積み重ねが未来へと繋がっていくことが見えてきます。

このような地域の歴史を客観的に後世へ伝える手段の一つに、「自治体史の編さん」があります。延岡市域でも、これまでに「市史」や「町史」が作られてきましたが、合併後の新たな市を対象としたものではありませんでした。そこで、市制施行一〇〇周年(令和十四年度)に合わせ、本市にまつわる歴史資料を網羅的に調査し、歴史や文化を体系的にまとめ、よりわかりやすく内容の充実した新しい『延岡市史』を編さんする「市史編さん事業」が始まりました。

この「市史だより」は、今後、定期的に発行し、市史編さんの過程をご紹介するとともに、延岡の歴史や文化をわかりやすく発信してまいります。市史編さんはまだ始まったばかりです。皆さんも私たちと一緒に、延岡の歴史を探っていきませんか？

新しい「延岡市史」の編さんに寄せて



延岡市長
読谷山 洋司

このような多彩な都市がいかにして形成されてきたかについて、このたびの市史編さんでは、市制一〇〇周年を迎える令和十四年度を目標に、合併後の市域を含め、古代から現代までの本市の歴史を体系的にまとめることとなります。

編さん事業にあたっては、史資料のしつかい悉皆的な調査※を行いますので、各分野の専門的な知見と高度な研究実績を持つ学識者からなる編集委員会が必要となり、既に発足したところです。時間の経過とともに滅失や散逸することが危惧される貴重な歴史資料や歴史的な証言などを、今回、しっかりと調査・収集し、整理・保存を行い、後世に継承していきたいと考えております。

延岡市には多くの神話伝承や文化財などがあり、豊かな歴史・文化に恵まれています。これまで本格的・体系的にまとめられた市史がありませんでした。「これではいけない」と私はかねてよりずっと思っていました。このたび初めての本格的な市史編さん事業がスタートすることとなり、大変うれしく思っております。これまでご尽力賜りました皆様方に改めて感謝を申し上げますとともに、今後多くの市民の皆様方にご理解、ご協力を賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

平成の合併により九州で二番目の広さとなった本市は、海・山・川の豊かな自然や歴史、文化、また世界最先端の産業の集積など、自然、歴史、文化、産業が調和した多彩な特色を持つ都市となっています。

市史編さんは、長い期間を要し、且つ多額の予算を必要とする事業です。そのため、市民の皆様のご理解、ご協力が不可欠です。今後、毎年、市民の皆様に対して、事業の進捗報告を行うとともに意見交換を行いながら、編さん作業を進めていく考えであり、このプロセスを通じて市民の皆様が郷土に対する愛着や誇りを更に抱いていただくことを念願しております。市民の皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

※しつかい悉皆的な調査：対象となるものを可能な限り全て調査すること。

表紙の写真について



市史編さん係では個人のお宅等にある資料等の提供をお願いしています。この写真は、一番初めに提供していただいた資料からの一枚です。北川町は町名の由来となった北川が貫流し、川を渡るのに渡し舟が重宝されていました。その渡し場の一つがこの竹瀬です。子どもから大人まで渡し舟に親しむ様子や、当時の服装など様々なことが窺い知れる貴重な資料です。

写真から約十八年後の昭和三十二（一九五七）年に潜水橋が完成し、さらに平成十（一九九八）年には、現在の川坂大橋が架けられ、対岸の川坂との往来、自動車での通行が楽になり、また通学路の安全確保が図られるなど、地域の生活向上に大きく寄与しています。



川坂大橋（現在の竹瀬付近）

延岡市史編さん事業のはじまりにあたって



延岡市史編集委員会
編集委員長
有馬 学
(福岡市博物館 総館長)

延岡市史編集委員会が、考古、古代、中世、近世、近現代、民俗の六つの部会をもって発足しました。延岡市史の編さん事業がここから始まります。

『宮崎県史』の刊行からすでに二十年以上が経過し、その間、大きな自治体史として『都城市史』『日向市史』『西都市史』などが刊行されました。豊かな歴史文化に恵まれた延岡市に、これまで市史が無かったのは不思議と感じていた方も少なくないでしょう。

それだけに、たとえば市史編さん事業懇話会などの場で示された市民の皆さまの期待と熱意には驚かされるものがありました。私ども編集委員会は、そのような期待と熱意を受けとめながら、皆様とともに延岡という地域の歴史の意味を改めて考えていくつもりです。

自治体史の編さん事業には、共通して目ざす

べき鉄則のようなものがあります。一つは、可能な限り網羅的な史資料の調査を実施し、収集された史資料を公開することです。信頼できる史料集の刊行はその重要な一部です。第二は、最新の学術的な知見に基づくわかりやすい叙述による通史の提供です。

けれども、二十一世紀もすでに二十年を超える時間を経たいま、公的資金を投じて自治体史編さん事業を行う意味は、これらの鉄則だけでは十分ではありません。少子高齢化という、人類がこれまで経験したことのない事態に直面し、情報化、国際化の進展が世界的な激動をもたらす中で、地域社会のあり方自体も変質を続けています。市民にとって、歴史の意味は以前ほど自明ではありません。

編集委員会は、市民にとって地域の歴史とは何かという問いに立ち戻って、編さん事業にあたりたいと考えています。それは地域社会の新しい価値観を創り出すことにもつながるでしょう。皆さんも一緒に答を探していきましょう。



Message

市民からのメッセージ



延岡市区長連絡協議会
会長
吉田 敏春

現在、延岡市には三八九の区があり、市民の幸福や健康維持、自主防災活動など安全・安心な

暮らしのため、区長を中心に行政と密に連携を図りながら日夜、市民一丸となって取り組んでいるところです。

延岡は古くからお大師さんの「おせったいの心」が根付いてきており、近代、工業都市として発展していく中でもこれがしっかりと受け継がれ、これからの地域コミュニティに必要な「自助」「共助」の精神が豊かなまちだと思っております。こうした、よりよき延岡の魅力を、末永く伝えていくためには、先人達の思いや苦労、努力を知ることが大切であり、そのためには地域の歴史や文化、風土から学ぶことは大きな意義があり、それらをまとめ、しっかりと後世に伝えることの重要性を日々実感しているところです。

今回の市史編さん事業では、市史に関するあらゆる情報の掘り起しに努めるとお聞きしております。延岡市区長連絡協議会といたしましても、これに積極的に協力し、ふるさととの歴史の掘り起しに繋げ、より深くその歴史と文化を理解することで、市民が地域について考える契機とし、それが、しっかりと次世代へと受け継がれ、市民や次世代の子ども達に、ふるさと延岡への愛着と郷土愛が、しっかりと根付いて育まれていくことを願っております。そうして、こうした取り組みが延岡をさらに発展させる大きな力になるものと信じております。

「延岡市史編さん基本計画」の概要

「延岡市史編さん基本計画」は、新たな延岡市史の編さんにあたり、その基本的な方針をまとめたもので、長期にわたる事業の根幹となる計画です。市民や学識者からなる「延岡市史編さん事業懇話会」やパブリックコメントなどで広く皆様の意見を伺い策定しました。

趣旨・目的

- 歴史的・文化的価値のある歴史資料を収集・整理し、その保存と利活用を行うこと。
- 国内における延岡市の歴史的・文化的な位置を明確にすること。
- 歴史資料に基づき学術的に記述し、正確な歴史を後世へ継承すること。
- 市民の皆様が郷土に対する愛着・誇りを持って頂くとともに、文化の向上や市政の発展に役立てること。

編さん方針

- これまでの研究や歴史資料に基づいて、最新の内容も盛り込み記述する。
- 史実に基づき、学術的に高い水準を保つものにする。
- 市民の協力を得ながら、幅広く歴史資料を集め、調査を実施する。
- 集めた資料は適切に保管し、デジタル化に努めるなど、市民・研究者が広く利活用できるようにする。
- 紙面は写真や図版を多く使い、分かりやすく親しみの持てる内容にする。

編さん組織

延岡市史編さん事業懇話会

市史編さんの基礎となる「延岡市史編さん基本計画」を策定するため設置したもので、市民や学識者で構成。

延岡市史編集委員会及び専門部会

「延岡市史編さん基本計画」に基づき、編さんに必要な調査、研究、編集を行うために設置するもので、学識者で構成。専門部会は考古、古代、中世、近世、近現代、民俗の六部会を設置。

延岡市史編さん事業推進本部

長期に渡り市全体で取り組むための事業推進組織として市役所内に設置。

刊行計画

通史編 全三巻

延岡市の歴史を古代から現代に至るまで時代順に書き記したものを。

史資料編、民俗編、別編 全十四巻

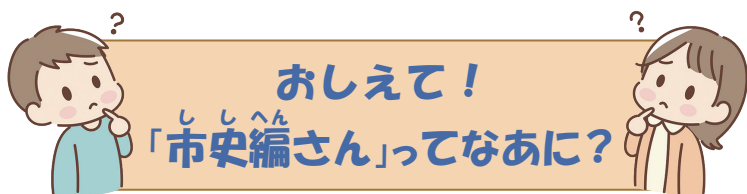
通史編に記述される内容の根拠となる古文書等の史料を活字化したり、考古や民俗等の資料を写真や図等として記録したもの。

令和六年度の『史資料編（近現代一）』を皮切りに、市制一〇〇周年（令和十四年度）に向けて順次刊行していく計画です。

※刊行計画は変更が生じる可能性があります。



※基本計画の全文および『概要版』は、市役所HPでご覧いただけます。



インタビュー② どうして新しい「市史」を作るの？

- Q 図書館には、「延岡市史」のほか、「北方町史」や「北浦町史」、「北川町史」があるよ。ちがいはあるの？
- A 地域がちがうのはもちろんのこと、内容やボリュームも大きく異なるんだ。作った人も、時期も、ちがうからね。
- Q こんなにたくさん「市史」や「町史」があるのに、どうして新しい「市史」を作るの？
- A 平成18・19年に1市3町が合併して、今の新しい延岡市になったんだ。今回の新しい「延岡市史」では、新しい延岡市の全部の地域を、同じ人が、同じ視点で調べるんだ。
- Q 新しい「市史」は、どんな人が、どんな視点で書くの？
- A 6つの分野の専門家の先生たちが、貴重な歴史資料を調べながら、延岡市の歴史や文化を紹介するよ。

インタビュー① 「市史」ってなあに？

- Q フクロウ先生。「市史」ってなんですか？
- A 「市史」とは、市の歴史をくわしくまとめたもの。つまり、「延岡市史」は延岡市の歴史をまとめた本だよ。
- Q 「編さん」ってなんですか？
- A 資料をたくさん集めて、わかりやすく編集し、本としてまとめることだよ。
- Q 「市史」は、いろんなまちで作られているの？
- A そうだよ。図書館の郷土資料コーナーに、「市史」や「町史」、「県史」などがあるよ。見に行ってみようか。

うん！



フクロウ先生

(いつもは延岡市立図書館にいるよ)



図書館で、昔の「延岡市史」を見つけたよ！

これからも、この「市史だより」で、みんなにわかりやすく新しい「市史」のことを伝えていくよ。お楽しみに！

● 市史編さん事業の経過

2019

令和元年

11月～12月 「新編延岡市史編さん事業（案）」に関する意見募集を実施

令和2年

4月 教育委員会文化課に市史編さん係設置

6月 第1回 市史編さん事業推進本部会議

9月～令和3年3月

延岡市史編さん事業懇話会（計3回）

（学識者6名、市民団体推薦6名、市民公募13名 計25名）

11月 市史編さん講演会

「延岡市史は何をめざすか～郷土史・地方史・地域史の先に～」

講師：有馬 学氏

（福岡市博物館総館長・延岡市史編さん事業懇話会会長）

11月～12月 「延岡市史編さん基本計画（案）」に関する意見募集を実施

2020

令和3年

3月 「延岡市史編さん基本計画」公表

5月 第1回 延岡市史編集委員会

5～6月 第1回 専門部会（考古・古代・中世・近世・近現代・民俗）

6月 第2回 延岡市史編集委員会

7月 第2回 市史編さん事業推進本部会議

市広報で資料提供の呼びかけを開始

2021



第1回 延岡市史編さん事業懇話会の様子
（令和2年9月14日）

● これまでの延岡市史等

旧延岡市

昭和24・25年 『延岡市史』 全3巻	石川恒太郎 編
（後に復刻 昭和56年 石川恒太郎著 『延岡市史』 国書刊行会）	
昭和24年 『市政十五年史』	延岡市議会事務局 編
昭和28年 『市政二十年史』	延岡市役所 発行 江川林蔵 編
昭和38年 『延岡市史』（市制施行30周年）	延岡市史編さん委員会 編
昭和58年 『延岡市史』（市制施行50周年） 上下2巻	延岡市史編さん委員会 編
平成5年 『延岡市史 市制六十周年記念十年史』	延岡市史編さん委員会 編
平成15年 『延岡市史 市制七十周年記念十年史』	延岡市史編さん室 編
平成25年 『延岡市史 市制八十周年記念十年史』	延岡市史編さん室 編



旧北浦町

平成6年 『北浦町史 史料編第一巻 町内文書』	北浦町 編
平成7年 『北浦町史 史料編第二巻 町内戦時史料』	北浦町 編
平成10年 『北浦町史 史料編第三巻 延岡藩内藤家文書（一）』	北浦町 編
平成12年 『北浦町史 史料編第四巻 延岡藩内藤家文書（二）』	北浦町 編
平成14年 『北浦町史 通史編』	北浦町 編

旧北方町

昭和47年 『北方町史 第一巻』	北方町史編纂委員会 編
平成9年 『北方町史 第二巻』	北方町史第二巻編纂委員 編

旧北川町

平成16年 『北川町史 通史編』	北川町 編
同年 『北川町史 別編』	北川町 編

● 新しい『延岡市史』の刊行計画

※調査の成果によって刊行計画に変更が生じる可能性があります。

編	時代	巻数	発刊予定年度	内容
通史編	自然・先史・古代	1巻	令和12年度	延岡市の歴史を古代から現代に至るまで時代順に書き記したもの
	中世・近世	1巻	令和13年度	
	近現代	1巻	令和14年度	
史資料編		12巻	令和6～12年度	通史編に記述される内容の根拠となる史資料をまとめたもの
民俗編		1巻	令和13年度	延岡市域の民俗（生活文化や風習等）についてまとめたもの
別編		1巻	令和11年度	延岡市の近現代写真集など

専門部会長からのあいさつ

考古部会



考古部会長
谷口 武範
元宮崎県立西都原
考古博物館 館長

延岡市での遺跡の調査は、江戸時代延岡藩主内藤政韶に始まります。その後、明治から昭和にかけて鳥居龍蔵博士、石川恒太郎氏など多くの研究者により、大貫貝塚や南方古墳群など様々な時代の遺跡の調査が行われました。そして現在、県や延岡市による遺跡の分布調査や開発に伴う発掘調査が進み、地域の歴史を解明するために必要な資料が数多く蓄積されてきています。

考古部会では、約三万年前の旧石器時代から近代（西南戦争）までを対象に、蓄積された資料を時代毎に整理し、遺跡や遺物の調査を進めます。さらに、自然環境や文献資料など様々な分野の専門家の協力も得ながら、それぞれの地域に生きる人たちの暮らしや活動の様子、いろいろな地域との交流など、考古資料からみえてくる延岡の歴史を分かりやすく紹介する市史を目指します。

より具体的な地域の特徴を明らかにするため、個人で所蔵されている資料や地域に残る伝承などの調査も考えています。皆様方のご協力をお願いします。

古代部会



古代部会長
柴田 博子
宮崎産業経営大学
法学部 教授

古代部会は、おおよそ平安時代なかにばまでの延岡の歴史を、おもに文献史料から取り上げていく予定です。いわゆる「日向神話」といわれる神代について記している書物は『日本書紀』『古事記』『日向国風土記』であり、すべて古代である奈良時代に成立した文献史料です。そこで古代部会では、これらの史料の成立経緯や性格、成立後の受容などについても、研究の最前線をくわしく紹介し、その叙述からわかることを市民の皆様提供したいと考えています。

延岡市史編集委員会専門部会の古代部会の専門委員は全員、宮崎出身もしくは宮崎に長く在住している、宮崎にくわしい古代史および上代文学の専門家で、古代理学について歴史学・文学の研究成果を中心に、さらに考古学・歴史地理学をはじめとする隣接諸分野の専門家とも協働しながら、市史編さんを進めていきます。

中世部会



中世部会長
関 周一
宮崎大学教育学部
教授

私は、茨城県日立市の出身で、二〇一三年十月に宮崎大学に赴任しました。茨城県では、『新修日立市史』および四つの『町史』の編さんに携わりました。

中世部会は、宮崎県外在住の専門委員とともに、延岡市をはじめとする県内および県外における史料調査を予定しています。

延岡市内には今山八幡宮文書などの中世文書が伝来しておりますが、その数は多くはありません。そこで中世の石塔や、寺社が所蔵している棟札の調査を行っていきます。

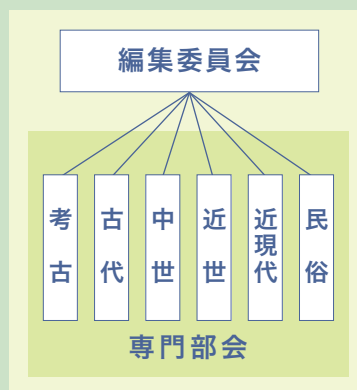
また中世の延岡は、周辺地域と強く結びついています。豊前国宇佐八幡宮の荘園である県荘（あがたのしょう）がおかれ、戦国時代には大友氏の軍勢が侵攻してきます。

延岡を拠点にした土持氏という武士は、日向国の各地で活躍しています。史料編において、土持氏関係の史料を網羅することを計画しています。

どんな人が
調査するの？

延岡市史編集委員会および専門部会

市史の編集は、基本計画に基づき、学識者で構成された編集委員会が行います。この編集委員会には、さらに6つの専門部会が設置されています（考古、古代、中世、近世、近現代、民俗）。市史を編さんするための調査等は、編集委員会および専門部会の委員（学識者）が担当します。



第2回 延岡市史編集委員会の様子
(令和3年6月18日)

近世部会



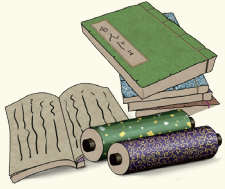
近世部会長
大賀 郁夫
宮崎公立大学
人文学部 教授

近世部会では、天正十五（一五八七）年豊臣秀吉の九州侵攻から、明治四（一八七一）年廃藩置県まで、特に江戸時代を中心とする史料編および通史編の刊行を計画しています。

天正十六（一五八八）年に延岡（当時は県）領主として高橋元種が入封し、以降領主は有馬・三浦・牧野・内藤氏と変遷します。三浦氏以降は国内最南端の譜代藩となり、内藤氏時代は城附臼杵郡とその西方の高千穂郷と、宮崎郡および豊後三郡（大分・速見・国東）に飛地を持つ複雑な支配領域でした。

近世部会では、延岡市域を中心に個人所蔵史料の悉皆調査を行い、また各領主別に近世史料の蒐集を行う予定です。特に延享四（一七四七）年以降延岡藩主であった内藤家に伝わる史料（内藤家文書）は膨大で、当時の政治・経済・社会・文化を深く知ることができると期待されます。

新たに発見された史料も多く、斬新な市史を目指します。皆様のご理解とご協力を
お願い致します。



近現代部会



近現代部会長
落合 弘樹
明治大学文学部
教授

南九州唯一の譜代大名だった延岡藩は、鳥羽伏見の戦いを経て、一時は新政府の征討の対象となります。廃藩置県を経て、延岡は美々津県、さらに宮崎県に編入されますが、西南戦争の際には延岡土族も参戦し、地域は薩軍の兵站^{へいざん}基地になるとともに、終盤は周辺で激しい戦いが展開されました。

そのうち、小林乾一郎らによる民有林保護運動が展開され、さらに一九〇年に旧藩主内藤政挙は延岡に定住し、地域の振興に尽力しています。とくに日平鉱山の開発の過程で整備された電力や港湾は、日本窒素の進出など、延岡の工業発展の基盤となっていきます。

また、亮天社から延岡中学校、延岡高等学校校にいたる育英事業は、地域における教育・文化の基軸となりました。

私は明治大学が預かりしている「内藤家文書」の近代史料の整理を通じて得られた知見を、何度か延岡で講演させていただきましたが、延岡の近代史の追究を、一層深めていく所存です。あわせて、市民の皆さまのご協力をこいねがう次第です。

※兵站^{へいざん}：戦において後方で人員・武器・食糧などの前送・補給にあたる活動や場所のこと。

民俗部会



民俗部会長
段上 達雄
別府大学文学部
特任教授

日本人の暮らしはこの五十年で大きく変わりました。一九六〇年代に始まる高度成長期は、商工業の急速な発展によって都市生活者を増やしました。同時に燃料革命によって、薪や木炭から石油やガスに転換し、竈^{かまど}や囲炉裏は失われ、薪炭林だった里山は荒廃しました。井戸は水道に代わり、台所は土間からシステムキッチンになりました。機械化は農林漁業にも及び、例えば、家族全員での田植えなどは見られなくなりました。

それに加えて近年の情報革命です。また、高齢化と少子化による人口減少は地域社会の存続を脅かしています。自然環境や歴史的経緯によって地域ごとに特色があった生活文化は、今まさに画一化されようとしています。

そのような中で、地域の伝統を守ろうと、祭り行事や民俗芸能、古くからの技術を守ろうとする人たちがいます。伝統的な生活文化を地域文化として延岡市史に記録として残すことは、最後の機会かも知れません。

昔のお話を聞くこと、それに祭りや民俗芸能を見せていただくことがあると思います。その時はぜひご協力頂ければ幸いです。

編集後記

「なめらかにつなぐ」学識者の専門知としての歴史と、ドラマ等から市民が持つ歴史イメージの乖離をつなぐ努力について、有馬編集委員長が市史編さん講演会のなかで表現された言葉です。

年号が令和と改まった年に、市民の熱意も後押しとなり、文化課に担当職員が配属された新たな市史編さんの準備が始まりました。事業開始後も、その熱意は随所に現れ、市民等の意見募集には多くの意見が寄せられ、また「延岡市史編さん事業懇話会」には十三名もの市民公募委員が参加し熱心なご意見をいただきました。こうして、市民・学識者・行政が一体となり策定した「延岡市史編さん基本計画」を礎に、「延岡市史編集委員会」による編さん作業がスタートいたしました。長い期間を要する市史編さんですが、市広報での資料提供の呼びかけに、早速何件もの資料や情報が届きました。この皆様の熱意、興味関心に応えるよう我々市史編さん係は「市史だより」等を通して、編さんの経過をわかり易くご紹介し、歴史や文化の面白さを発信し続けたいと考えています。

「なめらかにつなぐ」その答えを探しながら、市民の皆様と編集委員会の間をしつかりと繋いでまいります。（市史編さん係長）



第1回市史編さん講演会
(令和2年11月28日)

延岡に
ゆかりのある

資料や情報を探しています。

～あなたの家の押入れや蔵、区や公民館の倉庫などに、こんなものはありませんか？～

このようなものが延岡の歴史を知る「資料」となります。



古文書



古写真・アルバム・絵葉書

個人的な家族写真などからでも、当時の服装や街並み、生活様式などを知ることができます。



記念誌

地域や学校などで手作りしたもので構いません。

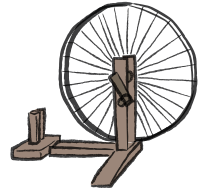


日記(日誌)や手紙



ビデオやカセットテープ

地域のお祭りや唄、行事などを記録したものです。



昔の道具

～ちょっと昔の延岡について、覚えていませんか？～

このような情報(お話や資料)を求めています!

たとえば

- ・川的生活文化(川漁、川舟、材木流し、渡し舟、川に関する信仰など)
- ・山村の生活文化(林業や鉱山、狩猟、炭焼き、山に関する信仰など)
- ・漁村の生活文化(漁業、船、船大工、海に関する信仰など)
- ・里山の生活文化(茶畑、染色、養蚕、田植の習俗・信仰など)
- ・街の生活文化(昔の街並み、商店街、商店、娯楽施設、団地の生活様式など)
- ・年中行事(七夕、盆、正月など)や冠婚葬祭について ・民俗芸能や供養盆踊りについて
- ・伝統的な地域の集まりについて(若者組、講、当座、当元など)
- ・昔の交通について(鉄道の思い出など) ・郷土食について

お話を聞かせていただくだけでも構いません(昔の道具については、収納スペースの関係で受け取れない場合があります)。心当たりがある方や情報をお持ちの方は、市史編さん係(TEL 0982-22-7047)まで、お気軽にご相談ください!

Information

国文祭・芸文祭みやざき2020

延岡市史
編さん記念

お城の魅力を語る

春風亭昇太師匠と千田教授トークショー

「笑点」の司会などで活躍、お城マニアとしても有名な落語家 春風亭昇太師匠と、城郭考古学の第一人者であり「続日本100名城」である延岡城とも関わりの深い千田嘉博教授による、お城の魅力を中心に歴史をテーマとした楽しいトークショーを開催します。



春風亭 昇太 師匠



千田 嘉博 教授(奈良大学)

◇日時 10月7日(木) 18時開場 18時30分開演

◇場所 延岡総合文化センター 大ホール ◇料金 500円(自由席)

■プレイガイド 延岡総合文化センター 延岡市役所売店
ローソクチケット(Lコード:82898)

■問い合わせ先 チケットに関すること 延岡総合文化センター 0982-22-1855
その他 延岡市教育委員会文化課(市史編さん係) 0982-22-7047

■主催 文化庁 厚生労働省 宮崎県 宮崎県教育委員会 延岡市 延岡市教育委員会
第35回国民文化祭宮崎県実行委員会 第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会
第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭延岡実行委員会
NPO法人のべおが天下一市民交流機構

■延岡市開催協賛 **AsahiKASEI**

